

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価 計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	みやき町立三根西小学校
-----	-------------

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 最終評価では、ほとんどの項目で成果指標を達成することができた。 毎月のアンケートへの対応や教職員による日頃の継続的な見取りを丁寧に行ってきたことで、いじめの未然防止や早期発見ができ、児童は安心して学校生活を送ることができた。 様々な業務改善策に取り組んできたことで、職員のタイムマネジメントへの意識が高まり、時間と気持ちに余裕を持って業務に取り組んだ職員が増えた。 国語、算数共に学力の定着に課題が残った。今後、読む力を高めるために読書の推奨をし、表現力を伸ばすために話し合いや自分の考えを書く活動を取り入れるなどの授業改善を行い、学力の向上を図りたい。
------------------	--

2 学校教育目標	やさしく、かしこく、たくましい三根西っ子の育成
----------	-------------------------

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ①やさしい子を育む（思いやりを持ち、助け合う子供の育成） ②かしこい子を育む（進んで学び、よく考える子供の育成） ③たくましい子を育む（生き生き活動する元気な子供の育成）
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		5 最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○学力向上対策評価シートの成果指標を達成した教師85%以上	・教職員間で共通実践や成果指標を共通理解し、毎月の校内研修で取組の推進を図る。 ・家庭学習の大切さや具体的な取り組み方を児童・保護者に伝え、家庭学習の習慣化を図る。 ・教員の指導力向上のため、通信を発行する。							【学び部】 ・研究主任 ・学力向上コーディネーター
	○校内研の推進	○体育に関するアンケートにおいて「友達と話し合うのが好きだ」に肯定的な回答をした児童が80%以上	・めあて、見通しが分かる授業を行う。 ・学習カードの共有を進める。 ・授業の中に、友達との関わりを重視した活動を取り入れる。							
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童80%以上	・道徳に関するアンケートを年に2回実施し、変容をみる。 ・学級活動や縦割り活動を行い、自己肯定感や自己有用感の高揚を図る。							【ぼかぼか部】 ・人権・同和教育担当者 ・道徳教育推進教師
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等)について組織的に対応できていると回答した教員85%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルを作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。							
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に良い食事をしている」と考える児童80%以上	・栄養教諭と連携して、各学年に応じた食育の授業や啓発を行う。 ・朝の健康観察で、朝食の内容を含めた喫食の実態把握を定期的に行う。							【ぼかぼか部】 ・食育担当
	●運動習慣の改善や定着化	●休み時間に外遊びをする児童の割合85%以上	・休み時間の遊びイベントをスポーツ委員会を中心に企画し、実行する。 ・佐賀県スポーツチャレンジの周知と全学年への参加を呼びかける。							
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する教職員80%以上	・施設時刻を提示し、定時退勤日を設定する。 ・衛生委員会を通じて勤務実態の共有を図り、業務改善の意識を高める。 ・校務シェアボード等ICT機器の利用を推進し、会議時間の短縮や分掌事務の効率化を図る。							・管理職
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に対する意識が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会を実施する。 ・ケース会議の開催や、関係者間での情報共有を行う。							・特別支援コーディネーター
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		5 最終評価				主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		
				進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○チーム学校としての取組の推進	○地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携の推進	○「効果的な地域連携、幼保小連携、小小・小中連携、外部機関との連携が行われている」と考える教師80%以上	・児童の安全確保や各種行事の効果的・効率的な実施のために地域との連携を図る。 ・小1ギャップや中1ギャップの軽減のために、幼保小連携、小小・小中連携の推進を図る。 ・配慮を要する児童やその保護者の支援のために、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等外部機関との連携を図る。							【三校合同連携部】 ・教務主任 ・特別支援コーディネーター ・教育相談担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・ ・ ・
--------------------	---